

過去を知る、未来につなぐ。

遺跡とは

過去を知るためには、古文書や石造物に記された文字、昔からの言い伝え等、文字や言葉から得る情報がかなりの量を占めます。ところが、文字や言葉がない(残る情報量が少ない)時代の歴史を知るためには、それ以外の資料から推測するしかありません。その一つが地中に遺された埋蔵文化財(遺跡(遺構と遺物))です。

意外と知られていませんが、三芳町には33か所の遺跡が存在します。昭和51年から町内で本格的な発掘調査が開始されて以来、三芳町教育委員会では、毎年10か所前後の発掘調査を行っています。

今回は、そのうちのひとつ、中東遺跡を取り上げます。

三富新田開拓前の上富

中東遺跡は、上富字中東の地に約5万1千m²の範囲に広がる旧石器時代を中心とした遺跡で、江戸時代の開拓で有名な三富新田の中にあります。

河川が存在

現在の町の西部域には自然の河川はありませんが、かつては数条の河川が存在し、その周辺に旧石器時代の遺跡が存在することが明らかになってきました。

発掘調査の結果、中東遺跡の中を約1万8千年前までは川が流れ、遺物はその両岸に沿うように発見されています。

この川は関越自動車道の西側を水源として、北永井地区を経て藤久保地区の富士見江川に流れ込んでいたと考えられます。

明治～平成	江戸時代	旧石器時代
2018	1867	3万5千年前 1万3千年前
〔三芳村の誕生〕 明治22年、1889年 合併して三芳村となる。	〔三富新田開拓〕 (元禄7、1696年) 川越藩主・柳沢吉保の命により、上富91、中富40、下富49の合計180屋敷による新しい村々ができあがる。	〔縄文時代(中世)〕 〔三富新田開拓〕 〔中東遺跡〕 (約3万年前)～ (1万6千年前)

〔上富ヒストリー〕

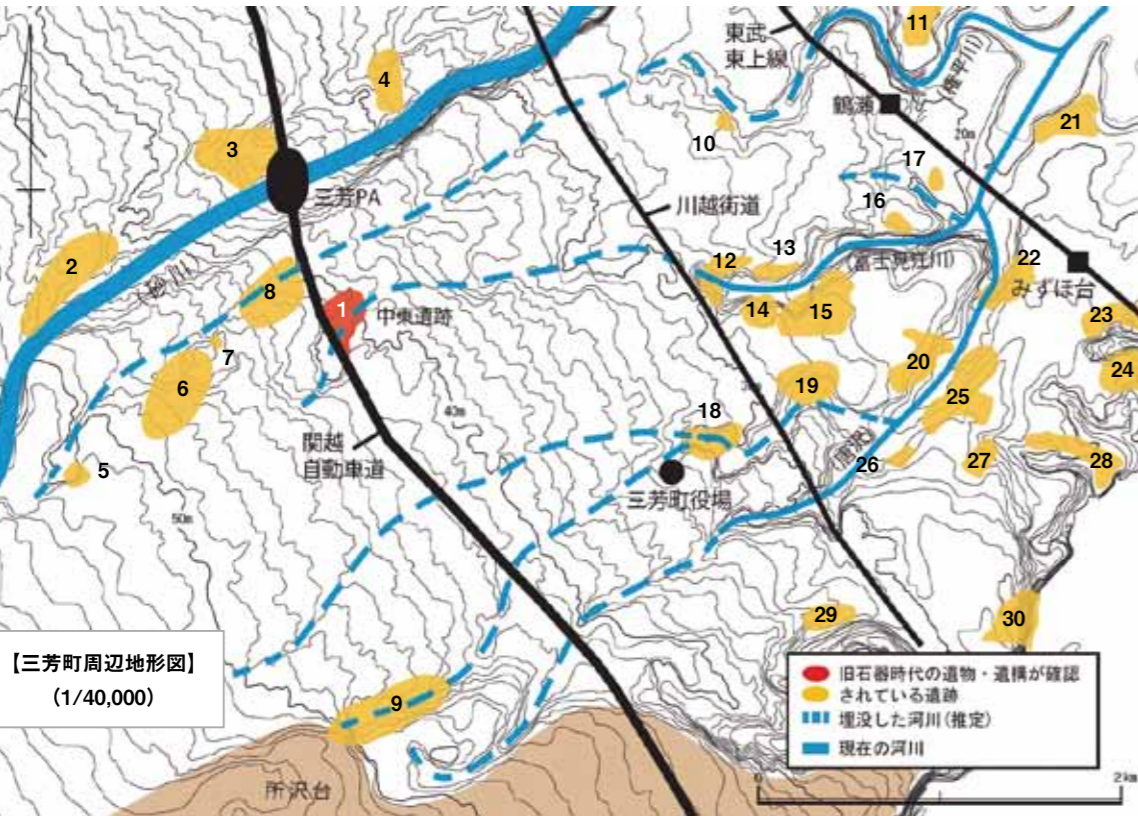
開拓以前は一面の茅原であったこの地に、遥か大昔の人類の痕跡が残されていたのです。

中東遺跡のこれまでの発掘調査で、約3万年前から1万6千年前にかけての地層から4300点を超える数多くの石器や調理に使った礫が発見されました。これにより、長い旧石器時代に人々が繰り返しこの地を訪れ、石器を作って狩猟生活を営んでいた様子が明らかになりました。

旧石器時代の三芳

旧石器時代の日本列島は水河期で、現在より平均気温が7～8℃も低い寒冷な気候でした。さらに、中東遺跡の土壌分析の結果、遺跡周辺は降水量が少なく、比較的乾燥した環境であったこともわかりました。

また、三芳周辺の大地を形成する関東ローム層(いわゆる赤土)は、火山灰が起源となった土です。旧石器時代を通じて、富士山や浅間山、榛名山など関東地方の火山が度々噴火しました。ローム層の中には、なんと、遠く九州の火山から噴出した火山灰が降り注ぐ中、人々は川沿いや崖下の湧水池に集まってくる獲物を追って移動を繰り返す、キャンプ生活を営んでいたと考えられます。



1. 中東遺跡 2. 上永久保遺跡 3. 東永久保遺跡 4. 境松遺跡 5. 月野原遺跡 6. 中西遺跡 7. サガヤマ遺跡 8. 中東第二遺跡 9. 南止遺跡 10. 浅間後遺跡 11. 谷津遺跡 12. 藤久保東遺跡 13. 藤久保東第二遺跡 14. 藤久保東第三遺跡 15. 俣笠遺跡 16. 木目遺跡 17. ハケ上遺跡 18. 南新埜遺跡 19. 藤久保南遺跡 20. 三芳唐沢遺跡 21. 打越遺跡 22. 松ノ木遺跡 23. 栗谷ツ遺跡 24. 北通遺跡 25. 新開遺跡 26. 新開第二遺跡 27. 北原遺跡 28. 南通遺跡 29. 通西遺跡 30. 古井戸山遺跡

旧石器時代の上富にも川があった？

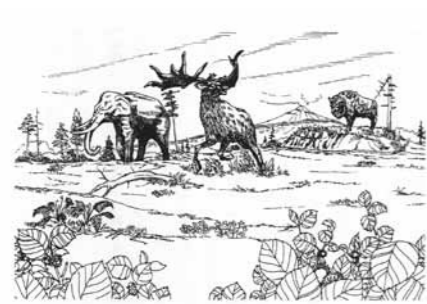


〔三富新田の中に位置する中東遺跡〕

文化庁主催全国5都市の巡回展に
中東遺跡の石器が展覧
「発掘された日本列島 2012」展

内容
毎年約8000件近い発掘調査が行われるなかで、文化庁主催で全国的に注目された発掘調査の出土品を展示。2012年は全国20遺跡から約580点の出土品が展覧。

スケジュール
江戸東京博物館をはじめ、青森、静岡、大阪、鳥取の各都市を巡回して展示。関連した展示を三芳町役場と歴史民俗資料館でも開催。



旧石器時代の風景
(想像図)